

## セミナーのお知らせ

# 岩手県山田町で採集した 日本新産・新種の紅藻

講師：東京大学大学院理学系研究科・生物科学専攻  
特任研究員 鈴木 雅大

- とき 2012年2月24日(金) 14:00～15:00
- ところ 朝倉キャンパス 理学部第2会議室 (理学部1号館2階)
- 問い合わせ先 峯 一郎 ☎088-844-8309

[mine@kochi-u.ac.jp](mailto:mine@kochi-u.ac.jp)

皆様のご参加をお待ちしています。

主催：黒潮圏総合科学専攻・黒潮圏科学部門

DCセミナー指定 (博士)(理系)  
黒潮圏セミナー指定 (修士)(理系)

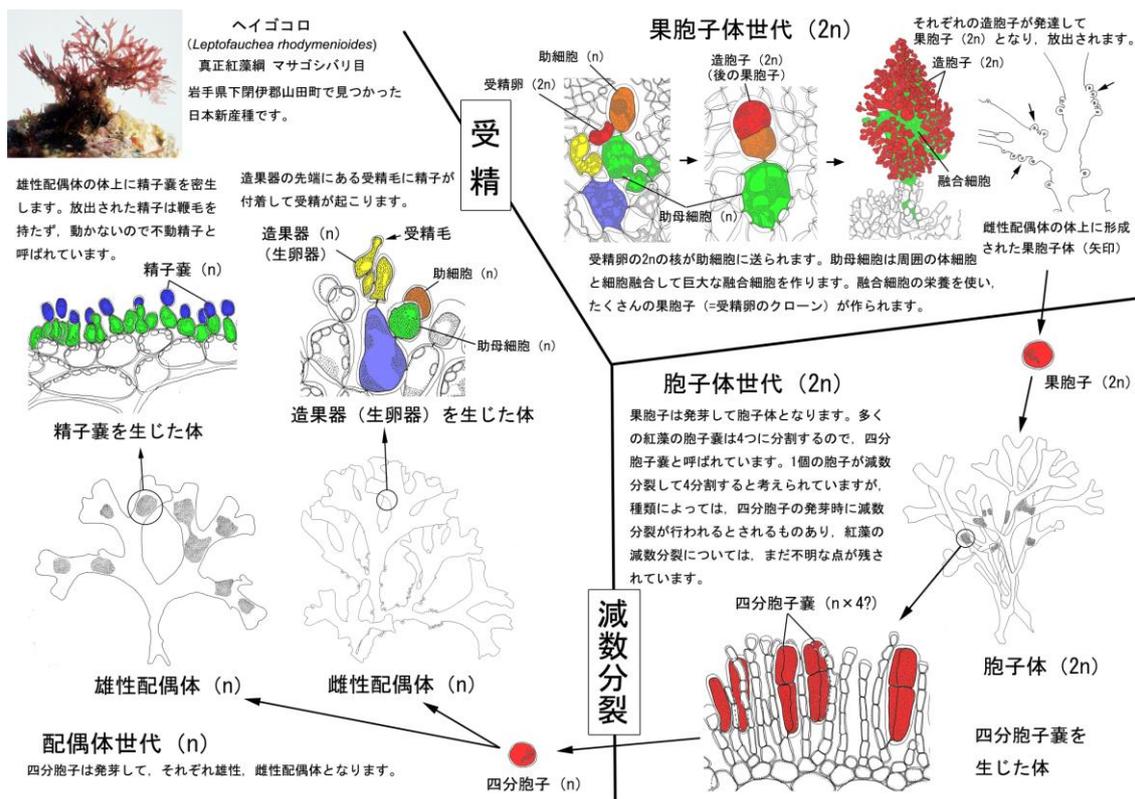
演者：鈴木雅大

東京大学・大学院理学系研究科・生物科学専攻・特任研究員

演題 岩手県山田町で採集した日本新産・新種の紅藻

1990年代から始まった分子系統解析の隆盛に伴い、海藻の分類は大きく変わった。従来充てられていた種とは異なるもの、属、科の所属の見直し、複数の隠蔽種を含むものなどが報告され、現在でも新属・新種・新産種の記載が目白押しである。日本産種においても大幅な見直しが必要とされている。演者は主に紅藻類を対象として、詳細な形態観察と分子系統解析に基づく分類学的研究を行っている。本セミナーでは、岩手県下閉伊郡山田町で報告した日本新産紅藻ヘイゴコロ (*Leptofaucha rhodymenioides*) と新種ナンブワツナギソウ (*Champia lubrica*) について紹介する。また、真核生物の中で独特の進化を遂げた紅藻の生活環についても併せて紹介したい。

### 紅藻ヘイゴコロの生活環 (Suzuki et al. 2010 を基に作成)



紅藻類は真核生物の中で唯一、鞭毛を持たない生物である。精子に鞭毛を持たない紅藻の有性生殖は独特である。紅藻類は受精後、受精卵が放出されず、単相の雌性配偶体の体上に受精卵のクローンからなる複相の果胞子体を発達させる。これは精子に運動性がないゆえの受精効率の悪さを補うべく、受精卵のクローンを大量生産するという生殖戦略と考えられている。